

# 福祉のひろば

特集

しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし

社会的不利を負っている人の立場に立たない限り

社会福祉の実践・研究に未来はない！ 【対談】杉村宏・垣内国光

—第16回社会福祉研究交流会分科会報告—

●トピックス●デンマークの女性福祉事情〈第2回〉

12  
2010



編集 総合社会福祉研究所



ひろばトーク

のびのび学習センター代表

もりおか

森岡

みねよし

峰美さん

子どもたちにわかる喜び、学ぶ楽しさを

# しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし

—— 第一六回社会福祉研究交流集会 ——

9月4日・5日、東京都日野市の<sup>めいせい</sup>明星大学で第16回社会福祉研究交流集会が開催され、福祉現場実践者、研究者など255名が参加しました。

1日目の全体会では、ジャーナリストの<sup>つづみみか</sup>堤未果さんが「アメリカ化を強める日本～自己責任論に負けないために～」、国立ハンセン病資料館運営委員の<sup>ひらさわやすし</sup>平沢保治さんからは「障害者患者運動とハンセン病」をテーマにした記念講演が行われ、会場は熱気で一杯でした。



オープニングのヘルパー座の公演、堤未果さん・平沢保治さんの二つの講演はいずれも内容深く、感動しました。「人がつながり合うことがとても大切」「人間らしく生き会うことをもっともっと大切に、市場化政策に向かおうとする現状を変える立場で今後も取り組みたいと思いました」（参加者の声）



「保育、介護分野で起こっていることと、障害者分野で起こっていることは共通の流れであることがリアルに伝わり、共有できました」「福祉労働としての共通の課題、各分野共通の課題として社会保障の根本が歪められない（改善されていく）よう、運動を進めていきたい」（参加者の声）



在宅介護の現状をアピールしたいと20代～60代のヘルパーたちで結成された「ヘルパー座」。「せめて外に出られたら。地域を感じながら暮らしたい」と願う、要介護者の現状を劇にしてみました。制度概念の狭さが『自費』の発生を生んでいる現状を伝えられたら、と思いながら演じてみました（ヘルパー座一同より）

●特集● しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし

第16回社会福祉研究交流集会は何を問いかけたか？

社会的不利を負っている人の立場に立たない限り

社会福祉の実践・研究に未来はない！

【対談】杉村宏／垣内国光 9

各分科会報告 13

国立ハンセン病資料館視察 37

●お知らせ●

総合社会福祉研究所活動報告のページ 38

「第15回合宿研究会 in 京都」ご案内 40

●連載●

フォーラム 所在不明高齢者問題の背後にあるもの 河合 克義 44

【リレー連載・第2回】デンマークの女性福祉事情

デンマークにおけるDVシェルターの位置づけと役割 吉中 季子 46

【新連載】すみれ児童館子どもの家—素敵な放課後—

その誕生と歩み 澤井 勇人 50

相談室の窓から

自分気づき 青木 道忠 52

社会科学の窓から見える 社会福祉ひろば

自己責任論の歴史と高齢者医療 鍋谷 州春 54

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」

私の地域医療（その20） 早川 一光 56

よりあって おりあって——宅老所よりあい物語——

ハルさんは違う 下村恵美子 58

育つ風景 満足の中味 清水 玲子 60

落合健二のニュース私考

15万人の若者が無職で卒業した日本 落合 健二 62

映画案内 『さとうきび畑の唄』 吉村 英夫 64

現代の貧困を訪ねて

野宿者いじめの空き缶回収禁止条例 生田 武志 66

海外社会保障事情 在米被爆者とアメリカの医療制度 中尾賀要子 68

私の研究ノート ケアマネジャーのシステムと専門性

～医療・福祉の垣根を越えて～ 武田留美子 70

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 72

花咲け！男やもめ 川口モトコ 74

バリアフリーな社会をめざして

避難にも一人ひとりのココロのバリアフリー 有賀 絵理 75

今月の本棚 41／みんなのポスト 42／ことばで遊ぼう！ 73／

福祉の動き 76

●グラビア● しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし

—第16回社会福祉研究交流集会—

●表紙の作品●

神門やすこ



●カット●

川本 浩・田上明子

子どもたちにわかる喜び、  
学ぶ楽しさをのびのび学習センター代表 <sup>もりおか</sup>森岡 <sup>みねよし</sup>峰美さん

私がかつて法律事務所に勤めていた頃、教育は専門ではありませんでしたが、近所の小学生をもつお母さんから「子どもが四則計算ができないが、どうすればいいか」という相談を受けました。私には、小学六年のとき、私立中学を受験する友人たちだけが学校で特別指導を受け、私は「受験しないから」と除け者にされた悔しい経験があります。「受験のためではなく、子どもたちにわかる喜び、学ぶ楽しさを教えてあげたい。」そう思った私は、「のびのび学習センター」（以下、のびのび）を始めました。

個別指導で、子どもの理解度を確認して、つまづいているところを繰り返し説明します。中学三年生であっても、必要なら小学生の引き算・掛け算、小数・分数に戻ります。また、子どもが「先に宿題をしたい」と言えばその意思を尊重します。学校の学習を理解して宿題をきっちりしていれば、子どもは伸びます。他にも、社会見学や一泊学習・体験宿泊、広島への修学旅行なども行ってきました。

不登校やひきこもりの子どもたちもいます。のびのびに見学に来てから通い始めるまでに二年かかった子どももいました。子ども自身、本当は学校に行きたいのに行けない。どうすればいいのかわからない。そんなときに「のびのびにも自分と同じような子がいる」ことを思い出して、一歩動き始めるんです。

子どもは好きなことを見つけるとグンと伸びます。ある不登校の中二の子ですが、のびのびで好きな数学を中心に学習し、三年になって学校でテストだけを受けたところ、他の子よりもよい成績でした。それでも通学しません。しかしその後、高校・大学に進学し、今は社会人として働いています。また、中学で不登校になり、単位制高



## もりおか みねよし

1939年生まれ。1985年、大阪狭山市に子どもたちの成長を支援する「のびのび学習センター」を創立。2008年には社会的ひきこもりの青年たちの「居場所」として「若もの自立支援センターのびのび」を設立。現在、NPO法人子ども・若もの支援ネットワークおおさか理事長、大阪教育文化センターなどの教育相談室相談員、ひきこもり支援相談士としても子ども・青年の教育相談・支援活動に取り組んでいる。

校を出て短大で介護福祉士の資格を取り、今は特別養護老人ホームで働いている子もいます。このように、本来子どもたちは伸びる力をもっているのですが、親や教師、社会のあり方にプレッシャーを与えられると、しんどくなって一服したくなるのです。

今も自宅にひきこもったままの二〇代の青年もいます。中学を卒業してから「中学の勉強をしたい」と言うので、ファックスを使った学習指導を始めました。今は、のびのびが提携している通信制高校の教材を使って高校課程を学習しています。手紙とプリント教材を送ると、二〜三日後に解答が返ってきます。手紙の返事はありませんが、解答用紙が送られてくるのが、彼からの返事なのです。

親の教育相談では、子どもの不登校・ひきこもりで悩む親にじっくりと話をしてもらいます。親が子どもの様子を「相変わらずです」と一言で済ましても、くわしく聞くと、たとえば「相変わらず部屋に閉じこもっているが最近、新聞を読みだした」と言う。「子どもさんの心に変化が生まれてきたのではないですか」と指摘すると、「そうですね」とやっと気づきます。親が競争を煽る周囲の声に惑わされたり、自分の思いにとらわれることなく、子どもの成長の芽を見つけてあげることが大切だと思います。

私は、子ども・青年の問題を地域で一緒に考えようと、教育講演会やひきこもりをテーマにした映画「アンダンテ〜稲の旋律〜」の上映会などに取り組んだり、市民からの協働事業提案というかたちで青少年のひきこもり等をなくす支援事業を市に提起しています。市民と行政が協力して、子どもや親たちが気軽に相談でき、のびのびと成長できる地域と社会を実現したいものです。

(取材 中島悦子)





特

集

# しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし

——第16回社会福祉研究交流集会是  
何を問いかけたか？——

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない（憲法二五条）が問われ続けています。第一六回社会福祉研究交流集会テーマは、「しあわせって何だっけ？ 生活保障のある暮らし」ですが、そこに込められた国民の幸福権や生存権、生活権の実態や背景、そして現場での実践等を交流しました。

今号の特集では、①杉村宏さん（集会実行委員長）と垣内国光さん（集会事務局長）に集会を振り返っての対談、②六つの分科会報告概要、そして、③オプショナルツアー「国立ハンセン病資料館視察」について紹介します。

（なお、集会抄録に少し残部があります。希望される方は総合社会福祉研究所ホームページからお問い合わせください。）

## 第16回社会福祉研究交流集会は何を問いかけたか？

# 社会的不利を負っている人の立場に 立たない限り 社会福祉の実践・研究に未来はない！

【対談】

実行委員長 すぎむら 杉村 ひろし 宏（法政大学教授） 事務局長 かきうちくにみつ 垣内国光（明星大学教授）

九月四日・五日、東京都日野市の明星大学で、第一六回社会福祉研究交流集会が開催されました。

集会一日目は、ジャーナリストの堤未果さん「アメリカ化を強める日本へ自己責任論に負けないために」、国立ハンセン病資料館運営委員の平沢保治さん「障害者患者運動とハンセン病」の記念講演、垣内国光さんの報告があり、二日目は六つの分科会が行われました。

集会では何が提起され、何が明らかにされたのか。杉村宏実行委員長（法政大学教授、垣内国光事務局長（明星大学教授）が語ります。

### 福祉の各領域の全体に 共通する問題

杉村 いま社会福祉のそれぞれの領域で課題が山積していますが、それらはその領域だけの問題ではなく、市場化の動きのなかで全体に共通する問題になっています。こうしたなかで改めて、基本的人権に照らして「人間らしく生きる」とはどういうことか、「なぜ社会

福祉は市場化してはならないのか」、真剣な模索が始まっています。

人権を守るということは同時に、国や地方自治体の健全性を守ることです。今回の集会で記念講演されたハンセン病回復者の平沢保治さんのように人権を無視された歴史、人が人として扱われなかったことへの反省と、ジャーナリストの堤未果さんの指摘にあったように、アメリカの市場原理主義